

Argentinosaurus / Leo Genovese



■エスペランサの共演者でアルゼンチン生まれのピアニストが、出自を誇りに取り組んだ3年ぶりのリーダー第3弾

2014年に活動した“スプリング・カルテット”のスリー・リズムが、形を変えて結集。全曲オリジナルを描いて、セロニアス・モンクの動きを見せる②、ドラムスとシンクロするワルツ調の③、マッコイ・タイナーを想起させるモーダルな④と、ジェノベーゼのルーツが明らかになるのが興味深い。ピアノ・リードながら全員の自由なプレイが白熱の展開を生み出すタイトル曲⑦が白眉。メロディカや声でも貢献するデジョネットの存在感も光る。LP 専門レーベルの初年度最終作。(杉田) ④

- ①Chacarera Y Mas ②Cosmic Church ③Lamento Del Limonero ④Balle A Lo Divino /
⑤Diablicos ⑥Vidalita ⑦Argentinosaurus ⑧Ethiopian Blues
■Leo Genovese (p) Esperanza Spalding (b,vo) Jack DeJohnette (ds,melodica,vo)
2015.9.29, NYC
■Newvelle Records NV006LP

Menage A Trois / Enrico Pieranunzi

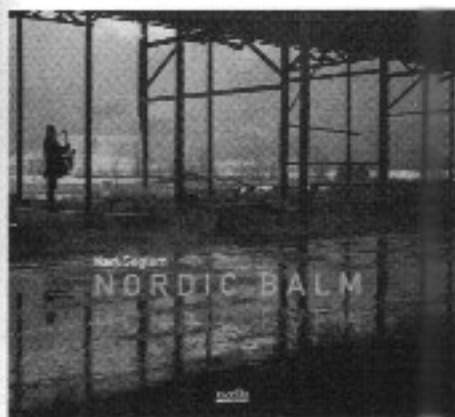


■伊の巨匠ピアニストが新編成のトリオで達成した創意溢れるジャズ・ミーツ・クラシックの独自形

明るいアップ・テンポのドビュッシー変奏曲①で、〈夜も昼も〉を引用するノリノリのエンリコを聴いて新境地を確信。サティ由来のワルツ調②、リズムを変化させた地中海物語がファンには堪らないバッハ由来曲③、ドビュッシーと自作曲を競げてソロ&トリオを演出した④、彼らしい叙情的旋律が現れるシューマン由来曲⑦、情熱的なフォーレ由来の⑩。アルバム名が示すように3人によるトリオの一体感を目指したことが、過去のクラシック関連作とは一線を画す初レーベル作だ。(杉田) ⑩

- ①Mr. Gollywogg ②Ere Gymnopedie ③Sicilyan Dream ④Medley: La Plus Lente Que Lente/La Moins Que Lente ⑤Hommage A Edith Piaf ⑥Le Crepuscule ⑦Mein Lieber Schumann ⑧Medley: Romance/Hommage A Milhaud ⑨Mein Lieber Schumann II ⑩Hommage A Faure ⑪Liebestraum Pour Tous
■Enrico Pieranunzi (p) Diego Imbert (b) Andre Ceccarelli (ds) ⑩©2016
■Bonsai Music BONS 160901

Nordic Balm / Karl Seglem



■ノルウェーのテナー奏者がランク・アップしたレギュラー・トリオをバックに取り組んだ“北欧の芳香”

ヤン・ガルバレク以降の同国人に例外のないテナー・スタイルを身につけているカール・セグレムは、ゴート・ホルンという前例のない武器を自分のものにしたことによって独自性を確立。牧歌的なテナーの響きはジャズの伝統ばかりでなく、情緒豊かな同国の歴史も感じさせる。エブレ・トリオとして活動するアンドレアス・ウルボらサイドメンは、テナー・リードの場面でも自己主張したり、セグレムとスピード感満点に一体となったりと、魅力を表出。昨年の初来日公演が甦る秀作だ。(杉田) ④

- ①Balsam ②Lys I Glaset ③Eidblome ④Myrull ⑤Februargras ⑥Ned Dalen ⑦Fjordskinn ⑧Helgheim ⑨Solhaug
■Karl Seglem (ts,goat horn,vo) Andreas Ulvo (p) Sigrud Hole (b) Jonas Howden Sjoavaag (ds,per,vo) 2016.1.5-7, Germany
■Ozella Music OZ064CD